

寄附金の民間受け皿の名称及び募金の趣旨、目的

① 名称

ア 募金のキャッチフレーズ

後世に伝える歴史的施設と地域の方々も気軽に利用できる施設として位置づけ、「瓦一枚を寄附しよう」

イ 旧吉田茂邸再建基金（募金）

ウ 旧吉田茂邸復元基金

エ 旧吉田邸復元「はまひろがお基金」・・・（大磯の花をイメージ）

復元吉田茂庭園公園基金・・・・・・・・・・（バラ園の復活）

大磯新迎賓館建設基金・・・・・・・・・・（新たな再建で）

再建吉田茂記念館（又は資料館）基金

オ 旧吉田茂邸再建基金、旧吉田茂邸再建支援基金

カ {
 ・ワンコイン（500円）募金
 ・プレート募金（10,000円以上）
 ・関係企業募金・その他財団関係

キ 旧吉田茂邸の復元に柱と瓦を送ろう

～柱と瓦を送り旧吉田茂邸を歴史的建物として復元し後世に残そう～

○募金をするからには、募金の目的をハッキリと示しておくことが必要

○募金がどの程度の額になるのか予測は難しい。このため、募金額によってアジャストできる「品物」で支給することが最良と考える。

○復元する建設財源、設計積算及び契約事務等において、執行事務が受け入れやすいことが必要

【参考】

復元（復原）：根拠に基づき、ある年代の姿に戻すこと。後の時代の改変を往時の姿に戻すこと。例えば地震で倒壊した建築物を残存する部材により建築した場合。全く同じ仕様で造っても、旧来の使用部材でなければ復元（復原）にはならない。

再建：焼けたり、壊れたりした建造物を立て直すこと。

② 募金の趣旨、目的

ア

2009年（平成21年）3月22日、私たちの町、大磯に戦前から存在し、戦後の独立回復を実施し、復興に力と尽くし、7年以上にわたってこの国を総理大臣としてリードした吉田さんの屋敷が焼失してしまいました。敷地全体を県立公園として整備する計画がスタートする直前のことでした。

私たちは、今日の日本が存在することを可能とし、後に名誉町民ともなられ、大磯の町民として常に私たちの心の中に生きてきた吉田さんが最後まで住んでおられ、多くの戦後政治史を目撃した建物を、何としても再建したいと強く願っています。

神奈川県も官民による正式な組織で再建策を具体化しつつあると聞いています。

再建される建物に少しでも多くの方々の「こころ」が込められるよう、また、私たちの「決意」を具体的に示す方法として、近い将来、大磯町が公式の再建基金をつくるまでの間、私たちの「気持ち」を受け入れる窓口として、また、現在すでに全国より町に寄せられつつある再建へのご寄附を受け入れる窓口として、この基金を立ち上げることを決意しました。

将来町の基金が発足する際、ここに寄せられた浄財は全額そのままその基金に移され、再建に使用されることをお約束いたします。また、一万円以上のご寄附を寄せられた方には、再建後の建物の利用に特典をさし上げるばかりではなく、税制上の優遇策についても別紙のとおりお約束します。

次の時代に受け継がれるべき大切な建物の再建に、みなさまのご寄附ご協力を心よりお願いいたします。

イ

以下の点を、趣意書としてまとめる。

- ・平成21年3月22日 旧吉田茂邸焼失
- ・吉田茂の功績と旧吉田茂邸の歴史的 position 付け
- ・文化財的価値と重要性
- ・再建の重要性
- ・公的な機関（自治体）での再建だが、再建に向けての金銭的支援の依頼（お気持ちを尊重する）
- ・町の基金条例が決定した暁には、行政（大磯町）に移管する旨を明記する。

③ その他

ア

再建基金の募集に際しては、町内各団体の代表者の大集合を願い、裾を拡げた活動をしなければならないと思う。各団体代表者会議の設置も必要と考える。